

平成29年12月13日
西部農林振興センター益田事務所農業普及部

標 題 「集落放牧は無事故が何より！」
冬を前に西いわみ地域の退牧完了。

(ダイジェスト)

11月21日、益田市の農事組合法人横尾衛門で放牧牛の退牧検査を行い、栄養状態が入牧時よりも良好であり、約半年間の放牧管理が適切に行われたことを集落法人、畜主及び関係機関の3者で確認しました。
今年の管内の集落放牧3件は全て無事故で退牧が完了し、「来年は何頭放牧するか」と積極的な声も聞かれ、次年度に向けて着実な定着・拡大が期待されます。

今年度、管内の集落放牧は3箇所。放牧牛は延べ7頭の新興地域ですが、今年も「無事故」でレンタル牛の退牧を行いました。

当日は午前10時に放牧場に集合し、法人の担当者2名外と共に、繋留された牛の健康状態の確認と体測を行ったところ、栄養状態は良好。胸囲・腹囲とも放牧前より伸びていることなどを確認しました。

当法人は、管内では唯一の和牛繁殖経営を取り入れた集落営農組織で、10月には2頭目の牛を購入され、来年の3月頃には法人で2頭目の生産子牛の出荷が予定されています。

堅実に経営の多角化を進める一方で、草が伸びる時期だけ借りて除草に使うレンタル牛も併用されています。

なお、管内では今年13頭のレンタル牛が県に登録され、放牧牛の供給体制は整いつつあります。

当地方の集落放牧事例は決して多くありませんが、当法人の事例等を耕畜連携のモデル事例としてPRし、他の集落営農組織への拡大を目指していきたいと思えます。



法人担当者と牧場が協力して退牧実施



法人担当者立会で退牧検査実施の状況